| | |
|---|---|
| 氏　　名 | 大原　俊二 |
| 学位の種類 | 博士（医学） |
| 学位記番号 | 甲第３９５号 |
| 学位授与年月日 | 平成２５年３月２１日 |
| 審査委員 | 主査　教授　　田島　義証 |
| | 副査　教授　　廣田　秋彦 |
| | 副査　教授　　杉本　利嗣 |

## 論文審査の結果の要旨

逆流性食道炎(RE)は，食道粘膜傷害の長さと広がりから重症度別にグレードAからDに分類される。申請者のグループは，グレードA，Bの軽症REにおける食道粘膜傷害には周在非対称性がみられ，食道下端部の右前方向に多く存在することを既に明らかにしている。その原因として食道下端部における逆流胃酸曝露の周在非対称性が示唆されるが，食道内の胃酸曝露の周在性を検討した報告は見られない。本研究では，申請者らが新たに開発した同一平面上に８個のpHセンサーが装着された全周pHモニタリング用のpHセンサーカテーテルを用いて，軽症RE患者の食道下端部粘膜における逆流胃酸曝露の周在性と食道粘膜傷害の周在性の関連を検討した。健常者４例，非びらん性胃食道逆流症(NERD)患者５例，軽症RE患者10例の合計19例を対象に，下部食道括約筋(LES)上端から口側２cmの位置に全周性pHセンサーを留置し，各方向におけるpH4未満%時間を用いて逆流胃酸曝露の周在性を評価した。その結果，健常者では胃酸曝露自体が少ないため周在性は観察されなかったが，NERD患者，軽症RE患者における胃酸曝露は非対称で，食道壁の右側に多い傾向を認めた。また，軽症RE患者で観察される食道粘膜傷害の周在部位は，逆流胃酸に長時間曝露される方向に一致していた。以上より，軽症RE患者では食道下端部の右前方向に胃酸の逆流が多く，この部位に食道粘膜傷害が生じやすいことが示された。逆流性食道炎に続発するバレット食道やバレット腺癌も同じ部位に好発することが知られている。本研究は，軽症RE患者にみられる食道粘膜傷害の周在非対称性の機序を明らかにするとともに，今後の食道癌の内視鏡スクリーニング法にも重要な示唆を与える有益な研究であると考え，博士（医学）の学位授与に値すると判断した。